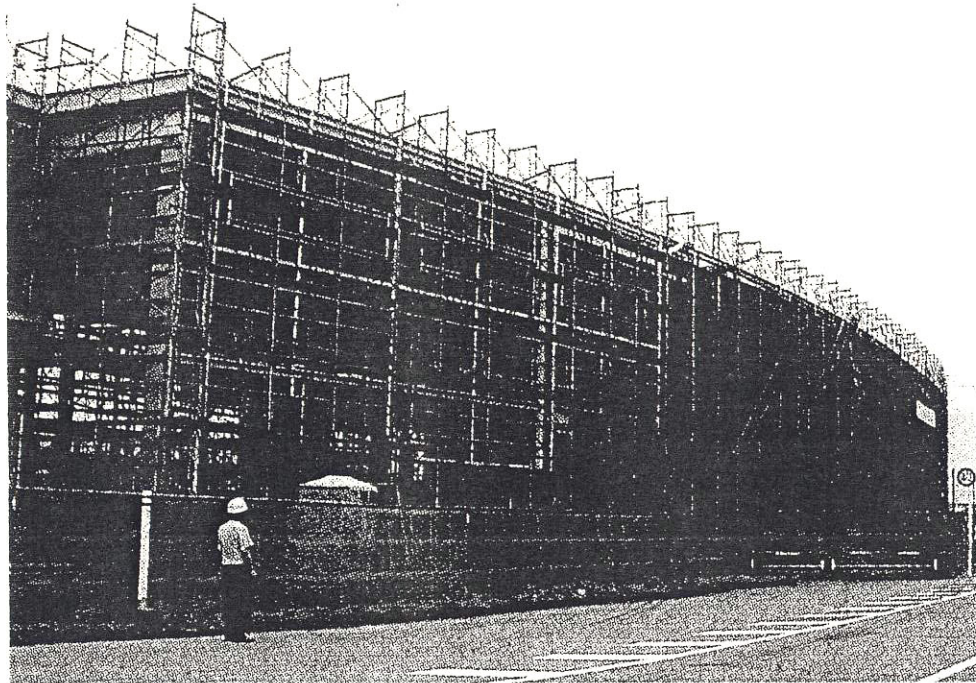


協伸静塗

景観配慮の新社屋建設

船のデザイン 来月末完成 新港工場の事業集約

金属製品表面の塗装加工の協伸静塗（高岡市吉久、加藤一博社長）は、同社北側に取得した土地に新社屋、工場を建設。新港工場（新湊市津幡江）の事業も集約し、生産から出荷までの効率性を高める。小矢部川左岸の細長い土地を活用、船をイメージし景観にマッチした建物にする。総事業費は六億円。



現工場敷地が、新設と上となることや、特殊塗れる臨港道路伏木外港線一装や少ロット商品対応の

新港工場との一元化、納期短縮など進めるため、移転新築することにした。

敷地は五千六百平方メートルの細長い土地。建物は工場棟が二千九百平方メートルで、外壁は曲面でシルバークラウド塗装を施しており、海側からの夕日に映える。この他、倉庫二棟などを含めると合わせて三千二百平方メートルとなる。敷地、建物とも現本社の一・二倍の規模。

小矢部川沿いに建設中の協伸静塗の新社屋・工場。壁面を曲面状にして景観にマッチさせた。高岡市吉久